

令和6年度

東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査

報告書

令和6年6月

東京都教育委員会

はじめに

東京都教育委員会は、東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査を毎年実施し、中学校、義務教育学校、中等教育学校及び高等学校の教科指導に活用できるよう、その結果を公表しています。

東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題は、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして、一部の領域に偏ることのない基本的な事項から出題されています。言い換えれば、入学者選抜のための問題であるとともに、中学校等の教育課程を修了する東京都の中学生一人一人の学習成果を測るものといえます。

令和6年2月21日に実施した学力検査に基づく入学者選抜には、約40,000人もの生徒等が受検しました。本調査報告書では、学力検査結果を分析し、各教科の平均点、得点分布及び各問の正答率や、正答率の低い問題を中心に主な誤答や誤答に至った原因分析等を掲載しています。

中学校等においては、国語・数学・英語・社会・理科の各教科のどのような分野や領域の力が身に付いているのか、また、苦手としているのかなど、東京都の中学生の学習状況の実態を表した調査結果と自校の生徒の学習状況との比較により、成果と課題の把握や、生徒の習熟の程度を高めるために必要な指導方法の工夫・改善等に活用することができます。

また、高等学校においては、調査結果と入学した生徒の学力検査結果との比較による学力の分析や、生徒の学習状況の実態に基づいた指導計画の立案、学力向上に向けた指導方法の工夫・改善等に活用することができます。

区市町村教育委員会、中学校等及び高等学校におかれましては、本調査報告書に掲載した内容等を、生徒の学習状況の実態把握や授業のねらいの設定など、生徒の様々な力を伸ばす学習指導に活用していただければ幸いです。

令和6年6月

東京都教育委員会

目 次

I	令和6年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針	1
II	調査目的	1
III	調査内容	1
IV	調査結果	
1	概要	1
(1)	教科別受検者数	
(2)	教科別実施校数	
(3)	教科別平均点	
2	各教科	2
(1)	国語	2
(2)	数学	4
(3)	英語	6
(4)	社会	8
(5)	理科	10

I 令和6年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針

- 1 中学校の教育課程に基づく学習の成果としての学力を検査することを基本とし、出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容によるものとする。
- 2 出題の内容は、各教科とも、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らし、基本的な事項を選ぶとともに、一部の領域に偏ることのないようにする。
- 3 出題に当たっては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や、思考力、判断力、表現力などをみるとともに、体験的な学習や問題解決的な学習などの成果もみることができるようにする。

II 調査目的

- 1 上記Iの基本方針に基づき東京都教育委員会が作成した学力検査問題（以下「共通問題」という。）を受検した者について、その学力の実態を把握する。
- 2 各教科・各問の正答及び誤答を分析し、その結果を公表することで、中学校、義務教育学校及び高等学校等における教科指導の改善に資する。

III 調査内容

令和6年度入学者選抜の第一次募集・分割前期募集（令和6年2月21日実施）において、全日制高等学校を志願し、共通問題により学力検査を受検した者について、次の調査を実施した。

- 1 教科別の平均点及び得点分布
全数調査により、教科別得点状況等を調査した。
- 2 各教科の小問・大問正答率
抽出調査により正答率を求めた。調査に当たっては、信頼度95%を担保するに十分な人数を抽出した。小問正答率は、小問において、抽出した受検者数に対する正答（部分正答を含む。）者数が占める割合である。大問正答率は、大問において、各小問で抽出した受検者の総数に対する、各小問での正答（部分正答を含む。）者の総数が占める割合である。

IV 調査結果

1 概要

(1) 教科別受検者数

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
34,467人	34,465人	34,270人	38,042人	38,042人

(2) 教科別実施校数

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
151校	151校	150校	160校	160校

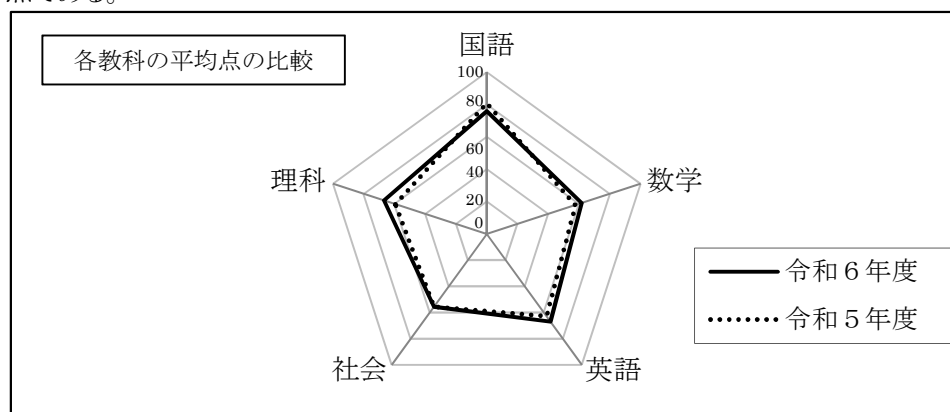
(3) 教科別平均点

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
75.9点 (80.8点)	61.7点 (57.6点)	66.9点 (62.8点)	55.5点 (55.6点)	66.8点 (59.4点)

(注1) 各教科の満点は100点である。

(注2) 記述式の問題や作図の問題では、各学校で部分点を与えるという採点上の配慮を行っている。

(注3) 教科別平均点欄の（ ）内の数字は、令和5年度入学者選抜学力検査における各教科の平均点である。



2 各教科

(1) 国語

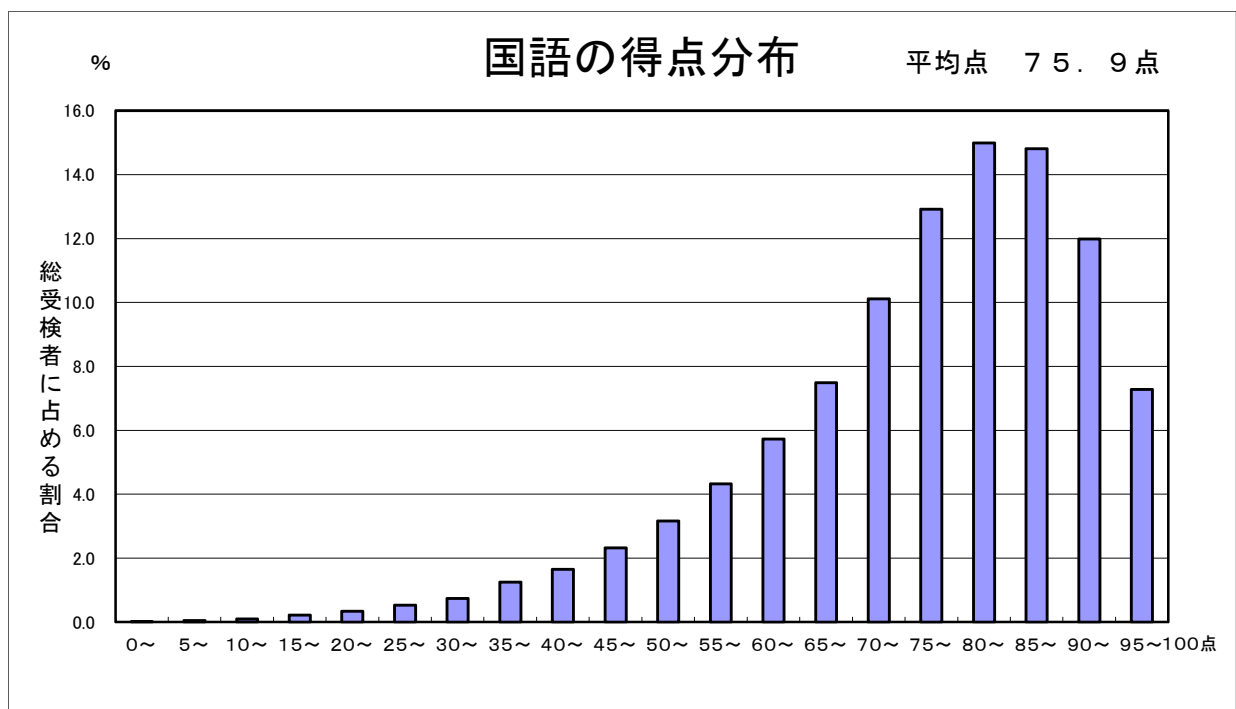
ア 出題の方針

国語の特質に関する理解や伝え合う力、思考力、想像力など国語で正確に理解し適切に表現する能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 漢字を正しく読む能力をみる。
- 2 漢字を正しく書く能力をみる。
- 3 文学的な文章を読み、叙述や描写などに即して、語句や文の意味、登場人物の様子、心情などを正しく理解する能力をみる。
- 4 説明的な文章を読み、叙述や文脈などに即して、語句や文の意味、文章の構成及び要旨などを正しく読み取る能力をみるとともに、考えが正確に伝わるように構成を工夫しながら、相手や目的に応じて自分の意見を論理的に表現する能力をみる。
- 5 対談を含め、古典を引用した複数の資料を読み、発言の意図や役割を理解することを通して伝え合う力をみるとともに、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、言語文化に関する知識をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は75.9点となり、昨年度より4.9点下降した。

今年度は、分布のピークが昨年度の90点～94点から80点～84点に移り、85点以上の受検者の割合が49.6%から34.1%に減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 漢字を正しく読む能力をみる問題とした。
- 2 漢字を正しく書く能力をみる問題とした。
- 3 天文部に所属する主人公とオンラインでつながった全国の仲間たちとの交流を描いた小説を読み、表現の特徴や登場人物の様子、心情などを正しく理解する能力をみる問題とした。
- 4 ヒトの認知能力の特徴について論じた文章を読み、叙述や文脈に即して内容や段落の役割、筆者の主張を正しく読み取る能力をみる問題、本文の主題を踏まえて自分の意見を聞き手に論理的に表現する能力をみる問題とした。
- 5 和歌に関する複数の文章や、原文とその現代語訳の一部を読み、要旨を的確に捉える問題、対談における発言の役割を理解することを通して、伝え合う力をみるとともに、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、言語文化に関する知識をみる問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 (3)「そ」と表記する誤答が多かった。
- 2 (1)「館」の「へん」を「食」と表記する誤答が多かった。
- 3 〔問3〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、「一度引いた亜紗の涙がまたこみあげてきそうになる」ときの主人公の心情について、叙述や描写に即して正しく読み取る力が十分ではなかったためと考えられる。
- 4 〔問2〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、「～ではないだろうか」という文末表現を読み誤り、段落の役割について、叙述や文脈に即して的確に捉えることができなかつたためと考えられる。また、〔問4〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、「それは共同幻想なのだろう」と筆者が述べた理由について、「それ」の指し示す内容を明らかにすることができなかつたことにより、正確に読み取ることができなかつたためと考えられる。
- 5 〔問1〕では、「ア」という誤答が多かった。これは、頼政の歌の示し方の特徴について述べられた複数の文章から、情報を整理することができなかつたためと考えられる。また、〔問3〕では、「エ」という誤答が多かった。これは、対談で述べられている「ずっと、その場で出てくるのでしょうか」という発言の意図や役割について、理解することができなかつたためと考えられる。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	(1)	2	88.0%	79.7%
	(2)	2	98.0%	
	(3)	2	40.2%	
	(4)	2	77.6%	
	(5)	2	94.8%	
2	(1)	2	72.4%	86.0%
	(2)	2	93.5%	
	(3)	2	91.3%	
	(4)	2	82.4%	
	(5)	2	90.4%	
3	※〔問1〕	5	77.8%	76.9%
	※〔問2〕	5	76.7%	
	※〔問3〕	5	60.9%	
	※〔問4〕	5	83.4%	
	※〔問5〕	5	85.6%	
4	※〔問1〕	5	67.7%	☆64.4%
	※〔問2〕	5	37.1%	
	※〔問3〕	5	85.3%	
	※〔問4〕	5	54.0%	
	〔問5〕	10	☆77.6%	
5	※〔問1〕	5	61.8%	70.9%
	※〔問2〕	5	78.9%	
	※〔問3〕	5	66.0%	
	※〔問4〕	5	66.3%	
	※〔問5〕	5	81.3%	
(注1) ☆は部分正答も含めた割合				
(注2) ※は記号選択式の問題				

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 2の正答率の高さから、漢字についての知識はおおむね身に付いていると考えるが、1の誤答の内容から語彙の量と質が十分ではないといえる。漢字の構成要素や語句の意味を確認させるとともに、用例を作成させることで漢字の知識及び技能を着実に習得させる指導や、多様な文章や表現に触れ、話や文章の中で使わせる指導を充実させることが必要である。
- (イ) 3の〔問3〕の、他と比較した正答率の低さから、登場人物の心情について、叙述や描写に即して正しく理解する能力が十分ではないと考えられる。文学的な文章の学習において、その内容や筆者の考えたことについて、文章の一部を引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする言語活動を通して、登場人物の言動の意味について考えて、内容を解釈する資質・能力を身に付けさせるための指導を充実させることが必要である。
- (ウ) 4の〔問2〕の、他と比較した正答率の低さから、文章の構成や論理の展開について正しく読み取る能力が十分ではないと考えられる。説明的な文章の学習において、文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、自分なりの意味付けをする資質・能力を身に付けさせるための指導を充実させることが必要である。
- (エ) 5の〔問1〕の、正答率の低さから、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、文章の内容を正しく理解する能力が十分ではないと考えられる。情報の適否を見極めながら整理して読み進める資質・能力を身に付けさせるための指導を充実させることが必要である。

(2) 数学

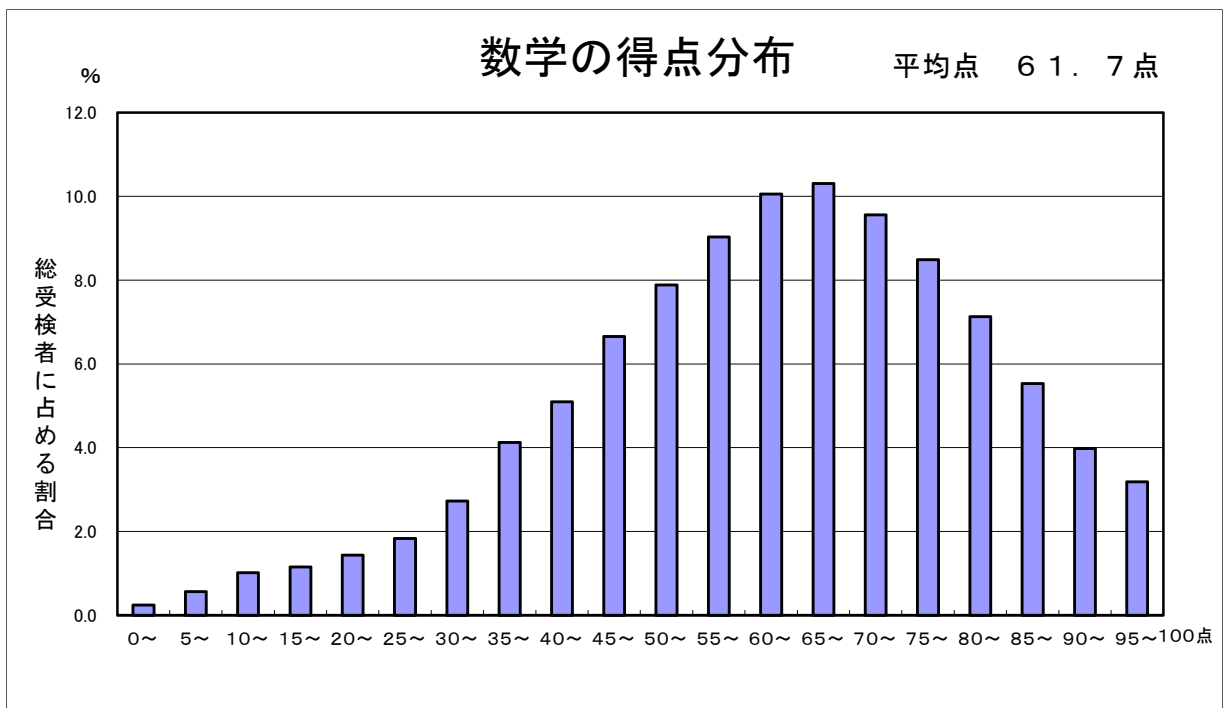
ア 出題の方針

数量や図形などに関する基礎的・基本的な事項についての知識及び技能をみるとともに、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等をみる。

イ 各問のねらい

- 1 数と式，図形，データの活用の各領域に関する基礎的・基本的な事項についての知識及び技能をみる。
- 2 数学的活動の場面をもとに，数学的な見方・考え方を働かせ，事象を数理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。
- 3 関数についての知識及び技能をみるとともに，関数関係を表現し，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。
- 4 平面図形についての知識及び技能をみるとともに，見通しをもって論理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。
- 5 空間図形についての知識及び技能をみるとともに，図形の性質や関係を直観的に捉え，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は61.7点となり，昨年度より4.1点上昇した。

今年度は，分布のピークが昨年度の60点～64点から65点～69点に移り，80点以上の受検者の割合が7.6%から19.8%に増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 計算問題や作図など基礎的・基本的な事項についての知識及び技能をみる問題とした。
- 2 図形を題材として、三角形を平行移動したときにできる図形の面積について、数理的に考察し文字を用いて処理する能力や推論の過程を的確に表現する能力をみる問題とした。
- 3 関数 $y=ax^2$ を題材として、変域を求める問題、2点を通る直線の式を求める問題、座標平面上の三角形の面積について考察し処理する能力をみる問題とした。
- 4 長方形を題材として、文字を用いた式で角の大きさを表す問題、三角形の相似を証明する問題、相似な三角形を見いだすなどして2つの線分の長さの比を求める問題とした。
- 5 三角柱を題材として、空間図形における2つの線分の位置関係に着目し角度を求める問題、三角柱の中にできる立体の体積を求める問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 〔問7〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、記録が15mの生徒の有無を箱ひげ図から判断できなかったためと考えられる。
また、〔問9〕では、辺ABと辺ADの垂直二等分線をそれぞれ引き、交点をPとする誤答が多かった。これは、辺ABと辺ADまでの距離が等しい点は、それぞれの辺の垂直二等分線上にあると誤認したためと考えられる。
- 2 〔問2〕では、部分正答を含めて正答率が23.9%、無答率は54.9%であった。これは、2つの台形の面積を文字で表す際、上底、下底、高さのそれぞれを正しく文字で表すことができなかったためと考えられる。
- 3 〔問3〕では、誤答率が45.7%、無答率が45.4%であった。これは、条件を満たす点の座標を、文字を用いた式で表し、その文字を用いて△AORの面積と△PQRの面積を表し、処理することができなかったためと考えられる。
- 4 〔問2〕②では、誤答率が71.5%、無答率が22.4%であった。これは、与えられた図から解答を導くために必要となる相似な図形を見いだすなどして、線分BDに含まれる線分の比を考察して見通しを立てることや、処理することができなかったためと考えられる。
- 5 〔問1〕では、誤答率が59.4%、無答率が7.3%であった。これは、空間内にできる二等辺三角形を捉えることができず、∠BMPの大きさを正しく考察することができなかったためと考えられる。
〔問2〕では、誤答率が54.0%、無答率が23.2%であった。これは、点Pから面ADEBに引いた垂線を高さとして捉えることはできたが、長さを求めることができなかったためと考えられる。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率	
1	〔問1〕	5	84.9%	☆73.8%	
	〔問2〕	5	68.1%		
	〔問3〕	5	83.4%		
	〔問4〕	5	93.5%		
	〔問5〕	5	86.2%		
	〔問6〕	5	60.4%		
	※〔問7〕	5	89.2%		
	〔問8〕	5	52.1%		
	〔問9〕	6	☆46.2%		
2	〔問1〕	5	61.1%	☆42.5%	
	〔問2〕	7	☆23.9%		
3	※〔問1〕	5	69.8%	47.8%	
	※〔問2〕	5	64.6%		
	〔問3〕	5	8.9%		
4	※〔問1〕	5	73.2%	☆43.1%	
	〔問2〕	①	7		☆50.1%
		②	5		6.1%
5	〔問1〕	5	33.3%	28.0%	
	〔問2〕	5	22.8%		

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 1の正答率から、計算問題等の基礎的・基本的な事項についての知識及び技能についてはおおむね定着していると考えられる。しかし、1〔問8〕、〔問9〕や4〔問2〕②の正答率の低さから、図形に関する基礎的・基本的な事項を活用したり、それらを組み合わせて考察したりする力が十分ではないと考えられる。条件を適切に読み取ることや、与えられた図形の中の合同な図形や相似な図形に着目して、既習事項に関連付けて考える場面を設けた指導を充実させる必要がある。
- (イ) 2〔問2〕及び4〔問2〕①の正答率から、推論の過程を的確に表現する力が十分ではないと考えられる。問題文から条件を読み取り立式する指導、推論の過程を根拠に基づき相手に分かりやすく伝える指導の充実が必要である。また、考えたことなどを数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動を通して、正確に、分かりやすく表現する能力を高める指導を充実させる必要がある。
- (ウ) 5の正答率から、図形の性質や関係を直観的に捉え、空間内にある直線と平面の位置関係や、立体の中にできる平面等を正確に把握する力が十分ではないと考えられる。実際に立体を作ることや、立体の見取図、展開図、投影図を用いてその図形のもつ性質を読み取ることなどを通して、空間における図形の位置関係を捉えたり、空間図形を平面図形に帰着させて考えたりする指導を充実させる必要がある。

(3) 英語

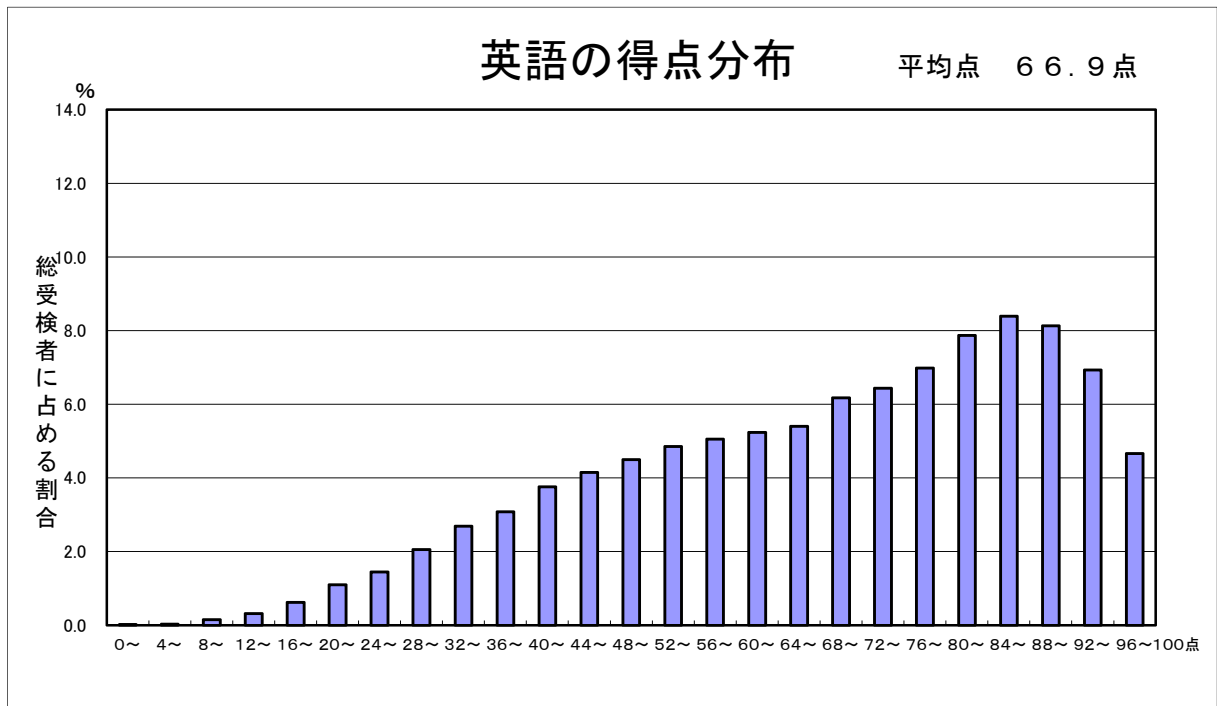
ア 出題の方針

簡単な英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解するとともに、自分の考えなどを表現するコミュニケーション能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 自然な口調で話される英語を聞いて、その具体的な内容や大切な部分を把握したり、聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる。
- 2 英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみるとともに、必要な情報を得たり、自分の考えを英語で表現したりする能力をみる。
- 3 まとまりのある対話文を読み、その流れや大切な部分を把握する能力をみる。
- 4 物語文を読み、そのあらすじや大切な部分を把握する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は66.9点となり、昨年度より4.1点上昇した。

今年度は、分布のピークが昨年度と同様に84点～87点となり、80点以上の受検者の割合が30.0%から36.0%に増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(7) 各問の内容及び正答率

① 週末の出来事に関するやり取りや、動物園の来園者に向けた説明などを聞き、具体的な内容や大切な部分を把握したり、聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる問題とした。

② 高校生と留学生が、空港から家までの経路を書いたメモや、空港の飲食店の案内を見ながら、来日する留学生の両親との予定について話し合う場面と、高校生と留学生、来日した留学生の両親が、歌舞伎が見られる劇場への行き方について話す場面を題材として、英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみる問題とした。

また、帰国した留学生からのEメールに返信する場面を設定し、「最近感動したこと」について、自分の考えやそれを取り上げた理由を英語で表現する能力をみる問題とした。

③ 高校生と留学生が、課題の解決方法について話をする中で、違う立場の人の意見を聞くことにより新たな視点に気付くという内容の対話文を読み、対話の流れや登場人物の考えを把握する能力をみる問題とした。

④ 高校生の主人公が、ホームステイ先で折り紙を折ったりお好み焼きを作ったりする経験を通して、他の国の人に日本のことを伝える楽しさに気付くという内容の物語文を読み、本文のあらすじや主人公の心情の変化を把握する能力をみる問題とした。

(イ) 主な誤答例等

① Bの〈Question 2〉では、“We can give the name.”や“People give name.”などとする誤答が多かった。これは、文構造への理解が十分でないため、具体的な質問の内容を細部まで聞き取れず、解答すべき内容を英語で正しく書き表すことができなかつたためと考えられる。

② 2では、「ウ」という誤答が多かった。これは、4人の対話から、4人が地図上のどの位置にいることを想定しているかを適切に理解し、Sumomo Fruit Store がどこにあるかを選ぶことができなかつたためと考えられる。また、3(2)では、「最近感動したこと」という主題を正確に理解できなかつたり、自分の考えを英語で正しく表現できなかつたりした解答が見られた。

③ 〔問4〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、下線部(4)が言及している内容を、対話の流れに沿って正しく理解することができなかつたためと考えられる。また、〔問7〕では、「イ」という誤答が多かった。これは、登場人物による対話の流れの理解が十分ではなかつたためと考えられる。

④ 〔問2〕では、「イ」の後に続く内容を「ウ」と取り違える誤答が多かった。また、〔問3〕(3)では、「ウ」という誤答が多かった。これは、本文のあらすじを正確に捉えていながつたり、登場人物の行動を正しく理解していながつたりしたためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

(7) ①及び②の正答率から、まとまりのある文章を聞いたり読んだりする際、コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、必要な情報、概要、要点を捉える力を高める指導を充実させることが必要である。また、聞いたり読んだりしたことについて生徒が自分の考えや気持ちを話したり書いたりするなどの複数の領域を統合した言語活動を通して、既習の語彙や表現の活用を促し、その定着を図る指導を充実させることが必要である。

(イ) ③及び④の正答率から、まとまりのある文章を読む際に、対話の流れや登場人物の考えを把握する力、本文のあらすじや主人公の心情の変化を把握する力を高める指導を充実させることが必要である。また、様々な文章に触れることを通して、幅広い表現の定着を図る指導を充実させることが必要である。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率	
①	※A	〈対話文1〉	4	94.4%	☆73.6%
		〈対話文2〉	4	93.6%	
		〈対話文3〉	4	74.8%	
	B	※〈Question 1〉	4	77.1%	
		〈Question 2〉	4	☆28.2%	
②	※1		4	64.7%	☆54.6%
	※2		4	47.3%	
	3	※(1)	4	58.2%	
		(2)	12	☆48.3%	
③	※〔問1〕		4	71.0%	67.2%
	※〔問2〕		4	76.9%	
	※〔問3〕		4	83.9%	
	※〔問4〕		4	61.6%	
	※〔問5〕		4	70.3%	
	※〔問6〕		4	69.3%	
	※〔問7〕		4	37.5%	
④	※〔問1〕		4	67.2%	56.9%
	〔問2〕		4	48.1%	
	※〔問3〕	(1)	4	64.4%	
		(2)	4	52.7%	
		(3)	4	45.6%	
	※〔問4〕	(1)	4	59.7%	
		(2)	4	60.5%	
	(注1) ☆は部分正答も含めた割合				
(注2) ※は記号選択式の問題					

(4) 社会

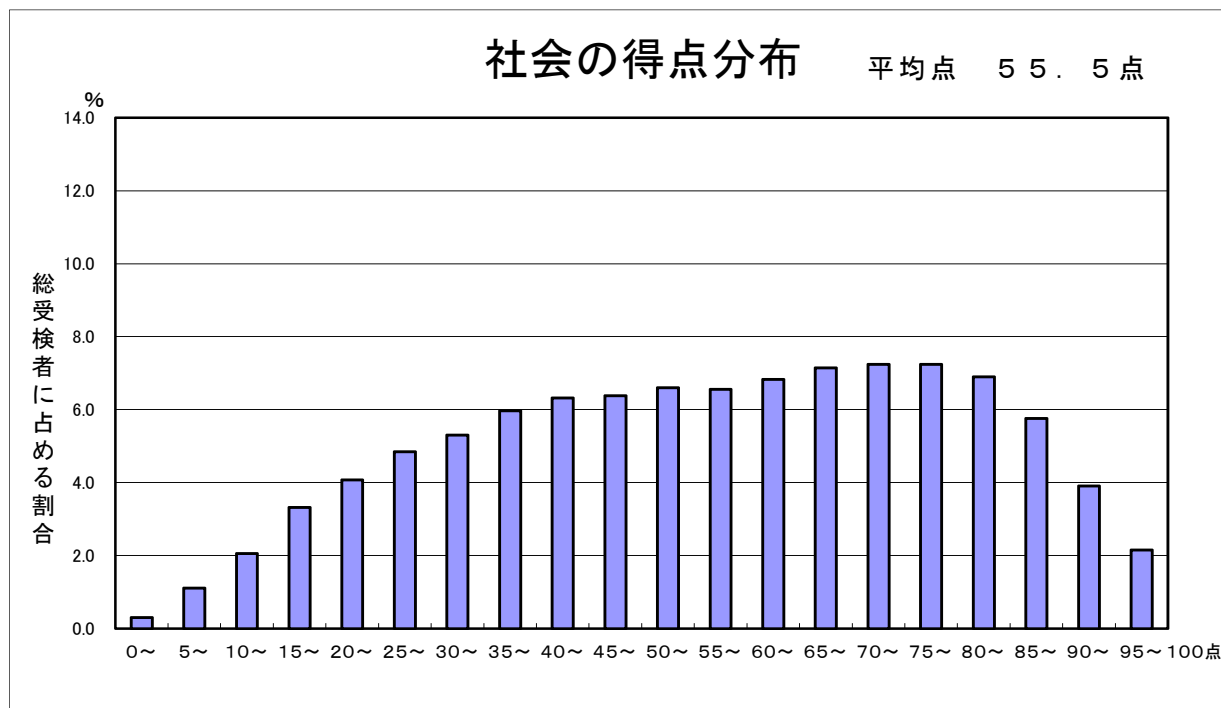
ア 出題の方針

地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみるとともに，地図や統計等の資料を活用して，社会的事象を多面的・多角的に考察し，適切に表現する能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみる。
- 2 世界の諸地域の特色や我が国と世界の結び付きについて，地図や統計等の資料を活用して考察する能力をみる。
- 3 我が国の国土や地域的特色について，地図や統計等の資料を活用して，自然環境や産業等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。
- 4 世界の歴史を背景にした我が国の歴史について，年表等の資料を活用して，政治，経済及び文化等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。
- 5 現代の社会的事象について，統計等の資料を活用して，政治や経済等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。
- 6 現代社会の諸問題について，地図や統計等の資料を活用して，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野の3分野から総合的に考察する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は55.5点となり，昨年度より0.1点下降した。

今年度は，分布のピークが昨年度の65点～69点から70点～74点に移り，80点以上の受検者の割合が7.3%から18.7%に増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 地形図から読み取った情報を基にした景観写真の判別, 戦国大名が領国を支配するために定めた法, 国会の種類について問う問題とした。
- 2 農業を題材として, 自然環境と農業の様子及び世界の気候, 穀物の生産量及び農業と食文化の様子, 我が国との結び付きについて地図や統計等の資料を活用して考察する能力をみる問題とした。
- 3 産業を題材として, 我が国の自然環境と第一次産業の様子, 人口と工業に関する統計等から, 地域的特色について考察する能力や, 資料から読み取れる, 将来の富山市における日常生活に必要な機能の利用について適切に表現する能力をみる問題とした。
- 4 海上交通を題材として, 古代から中世にかけての各時代の権力者による海外との交流の様子, 江戸時代から昭和時代にかけての港湾の開発, 昭和時代以降の海上輸送に関する主な出来事の時期について考察する能力や, 資料を活用し, 江戸時代の年貢米の輸送について適切に表現する能力をみる問題とした。
- 5 合意を題材として, 平等権を規定している日本国憲法の条文, 我が国の一般会計歳入額及び歳入項目別の割合, 国際的な合意の内容及び時期について考察する能力や, 資料を活用し, 18歳, 19歳に関する法改正における国の若年者に対する期待について適切に表現する能力をみる問題とした。
- 6 グローバル化を題材として, 研究などを目的に海外に滞在した日本人の活動, 国際会議が開催された時期, 州別の国際連合加盟国数の推移について, 3分野から総合的に考察する能力をみる問題とした。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※〔問1〕	5	29.4%	39.4%
	※〔問2〕	5	37.7%	
	※〔問3〕	5	51.0%	
2	※〔問1〕	5	25.3%	44.6%
	※〔問2〕	5	59.2%	
	※〔問3〕	5	49.2%	
3	※〔問1〕	5	68.9%	☆57.7%
	※〔問2〕	5	30.9%	
	〔問3〕	5	☆73.3%	
4	※〔問1〕	5	45.8%	☆39.7%
	〔問2〕	5	☆39.6%	
	※〔問3〕	5	36.2%	
	※〔問4〕	5	37.2%	
5	※〔問1〕	5	85.5%	☆59.0%
	※〔問2〕	5	29.0%	
	※〔問3〕	5	66.4%	
	〔問4〕	5	☆55.2%	
6	※〔問1〕	5	47.3%	59.2%
	※〔問2〕	5	63.5%	
	※〔問3〕	5	66.7%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

(イ) 主な誤答例等

- 1 〔問1〕では, 「C-U」, 「D-E」という誤答が多かった。これは, 写真と文から読み取った情報と, 地形図上の距離, 交差点の形等とを関連付けることができなかつたためと考えられる。
- 2 〔問1〕では, 「C-E」という誤答が多かった。これは, 説明文の内容から首都の位置について正しく選択できていたが, 標高と年平均気温とを関連付けて雨温図を特定することができなかつたためと考えられる。
- 3 〔問2〕では, 「A-Y」という誤答が多かった。これは, 説明文の内容から統計資料を正しく読み取ることができていたが, 人口分布の特徴等と地域的特色とを関連付けて県を特定することができなかつたためと考えられる。
- 4 〔問3〕では, 「B-A」, 「C-E」という誤答が多かった。これは, 明治時代の我が国の諸外国との関わりと国内の様子についての理解が十分ではなかつたためと考えられる。
- 5 〔問2〕では, 「D-U」という誤答が多かった。これは, 説明文の内容から歳入項目について正しく選択できていたが, 統計資料については, 既習事項と歳入額及び歳入項目別の割合とを関連付けることができなかつたためと考えられる。
- 6 〔問1〕では, 「A-U」, 「C-A」という誤答が多かった。これは, 略地図とヨーロッパの国に滞在した日本人の活動等とを関連付けて国の位置を特定することができなかつたためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 地理的分野については, 地形図や雨温図の読図, 統計資料の読み取りなど基礎的・基本的な地理的技能を身に付けさせる指導を充実させることが必要である。また, 地図帳を活用し, 複数の地理情報と関連付けて考察し, 地域的特色を理解する学習活動の一層の充実が必要である。
- (イ) 歴史的分野については, 我が国の歴史の大きな流れについて, 世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解させる指導を充実させることが必要である。また, 様々な資料を活用し, 歴史的事象を考察する学習活動の一層の充実が必要である。
- (ウ) 公民的分野については, 日本国憲法の基本的な考え, 政治や経済の諸制度を成り立たせている考え方や仕組みについて理解させる指導を充実させることが必要である。また, 統計等の資料を活用して多面的・多角的に考察し, 事実を正確に捉える学習活動の一層の充実が必要である。
- (エ) 論述問題については, 社会的事象から課題を見だし, 多面的・多角的に考察したことについて適切に表現する力を身に付ける学習活動の一層の充実が必要である。

(5) 理科

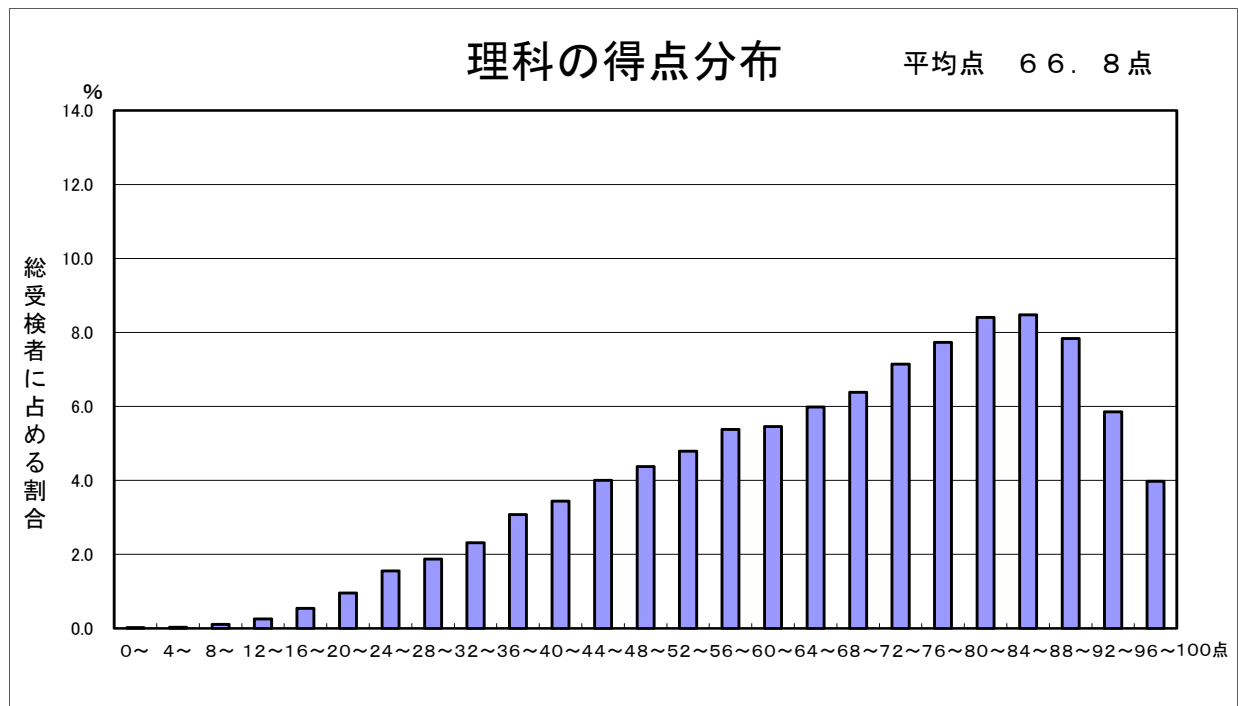
ア 出題の方針

自然の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、科学的に探究する活動を通して思考力、判断力、表現力等をみる。

イ 各問のねらい

- 1 第1分野（「エネルギー」や「粒子」）と第2分野（「生命」や「地球」）の各領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみる。
- 2 日常生活に関わる探究的な活動を通して、複数の領域にわたる事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力をみる。
- 3 「地球」を柱とする領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、観察を通して科学的な思考力、判断力、表現力をみる。
- 4 「生命」を柱にする領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、実験を通して科学的な思考力、判断力をみる。
- 5 「粒子」を柱とする領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、実験を通して科学的な思考力、判断力、表現力をみる。
- 6 「エネルギー」を柱とする領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、実験を通して科学的な思考力、判断力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は66.8点となり、昨年度より7.4点上昇した。

今年度は、分布のピークが昨年度の72点~75点から84~87点に移り、80点以上の受検者の割合は21.1%から26.1%に増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 各領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみる問題とした。
- 2 日常生活に関わる探究的な活動を通して、複数の領域にわたる事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力をみる問題とした。
- 3 太陽と地球の動きに関する観察を通して、太陽の日周運動と年周運動についての知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力、表現力をみる問題とした。
- 4 植物の働きに関する実験を通して、植物の体のつくりと働きについての知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力をみる問題とした。
- 5 水溶液に関する実験を通して、イオンや物質の水への溶解についての知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力、表現力をみる問題とした。
- 6 力学的エネルギーに関する実験を通して、運動とエネルギーについての知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力をみる問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 〔問1〕では、「ア」という誤答が多かった。これは、化学変化を原子や分子のモデルと関連付けて理解することが十分でなかったためと考えられる。
- 2 〔問2〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、金属を取り出せる岩石についての問題文から必要な情報を抽出・整理することが十分でなかったためと考えられる。
- 3 〔問4〕では、「イ」という誤答が多かった。これは、地軸の傾きと太陽の光が当たる地域を関連付けて考察する力が十分でなかったためと考えられる。
- 4 〔問1〕では、「ア」という誤答が多かった。これは、顕微鏡の使い方についての理解が十分ではなかったためと考えられる。
- 5 〔問2〕では、「ア」という誤答が多かった。これは、硝酸カリウムが一定量溶けたときの質量パーセント濃度と温度の上昇の関係についての理解が十分ではなかったためと考えられる。また、〔問4〕では、「エ」という誤答が多かった。これは、水溶液の知識が十分でなかったためと考えられる。
- 6 〔問4〕では、「イ」という誤答が多かった。これは、動滑車を使った場合の持ち上がる物体の高さについての理解が十分でなかったためと考えられる。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※〔問1〕	4	57.4%	70.9%
	※〔問2〕	4	62.5%	
	※〔問3〕	4	80.9%	
	※〔問4〕	4	84.4%	
	※〔問5〕	4	65.5%	
	※〔問6〕	4	74.7%	
2	※〔問1〕	4	54.6%	56.5%
	※〔問2〕	4	40.3%	
	※〔問3〕	4	46.8%	
	※〔問4〕	4	84.4%	
3	※〔問1〕	4	48.1%	50.3%
	〔問2〕	4	☆68.3%	
	※〔問3〕	4	51.9%	
	※〔問4〕	4	33.1%	
4	※〔問1〕	4	72.4%	81.5%
	※〔問2〕	4	83.5%	
	※〔問3〕	4	88.7%	
5	※〔問1〕	4	84.3%	49.9%
	※〔問2〕	4	32.1%	
	〔問3〕	4	☆51.5%	
	※〔問4〕	4	31.8%	
6	※〔問1〕	4	47.3%	49.1%
	※〔問2〕	4	49.4%	
	※〔問3〕	4	58.3%	
	※〔問4〕	4	41.3%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 3 〔問4〕の正答率が低いことから、天体の観察について、結果や資料を分析して解釈することに課題があると考えられる。探究の過程を通して思考力、判断力を育成する学習活動の一層の充実が必要である。
- (イ) 5 〔問2〕の正答率が低いことから、溶解度に関する基礎的・基本的事項の知識及び技能の定着に課題があると考えられる。探究の過程を通して必要な情報を抽出・整理する学習活動の一層の充実が必要である。
- (ウ) 5 〔問4〕の正答率が低いことから、水溶液の理解に課題があると考えられる。探究の過程を通して水溶液に関する基礎的・基本的事項の知識を活用し、考察する学習活動の一層の充実が必要である。